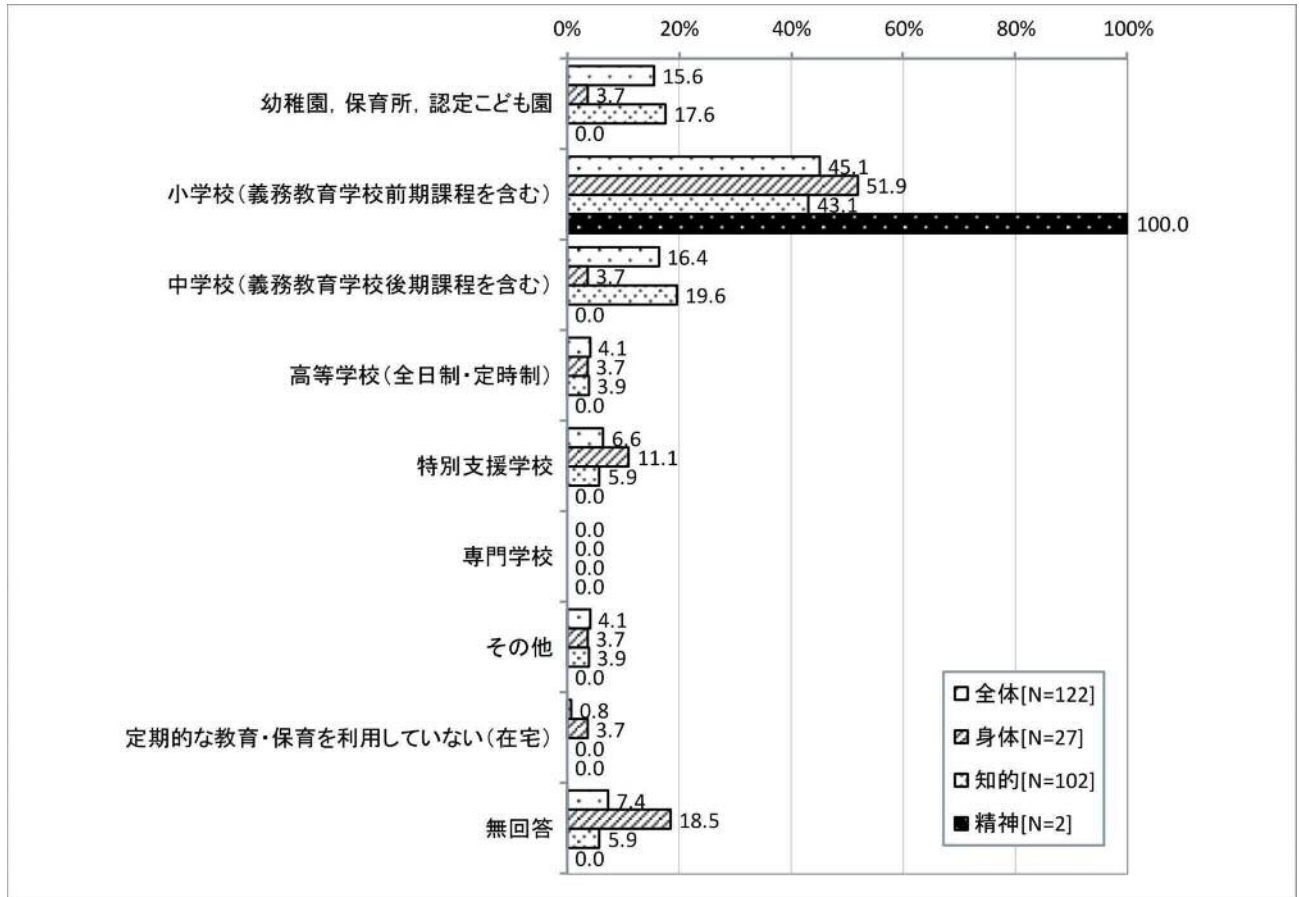


(4) 教育・保育や通所支援などについて（17歳以下対象）

① 在籍している学校

在籍している学校は、「小学校（義務教育学校前期課程を含む）」が45.1%、「中学校（義務教育学校後期課程を含む）」が16.4%、「幼稚園、保育所、認定こども園」が15.6%となっています。

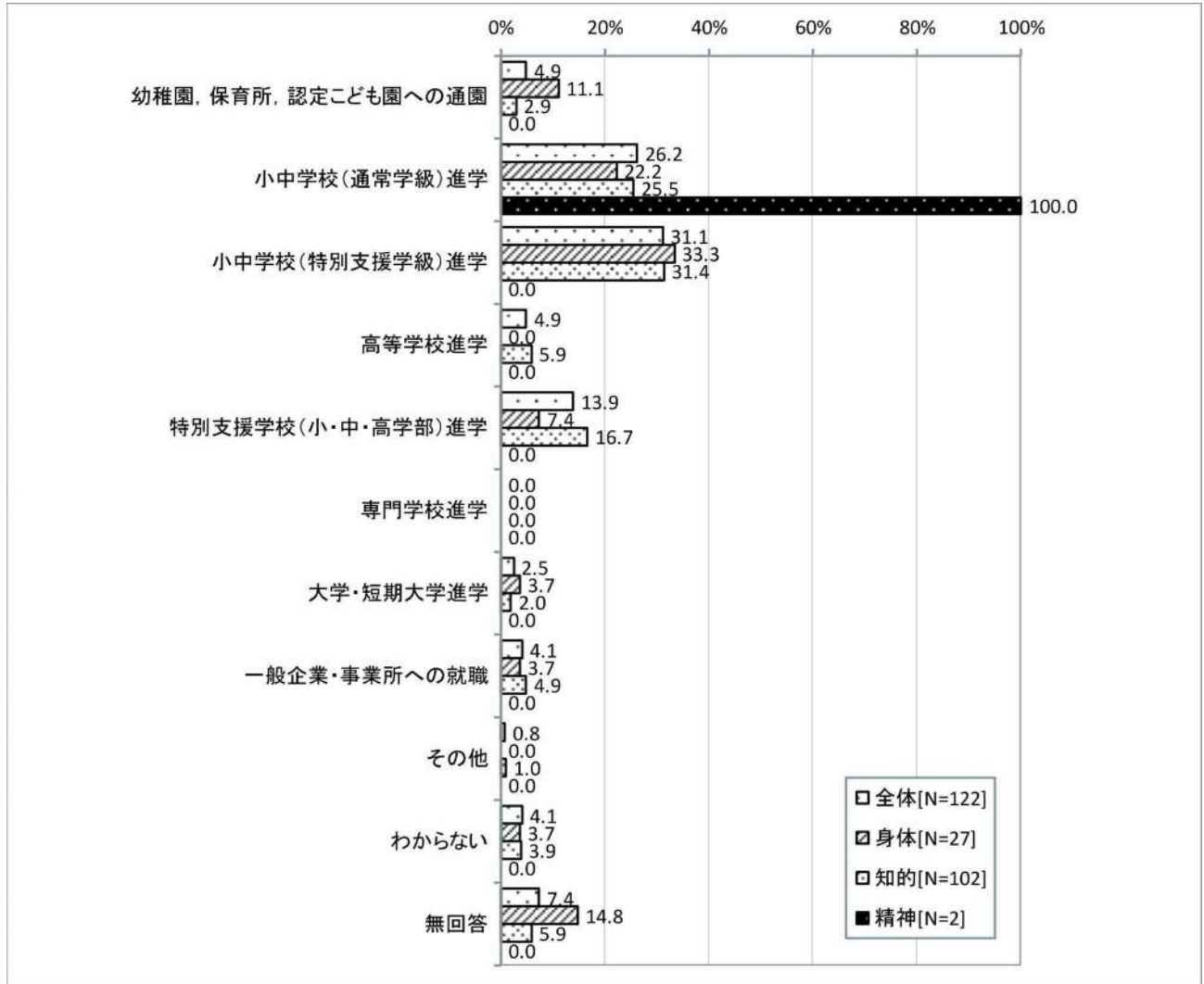
図表 54 在籍している学校[N=122]



② 希望する進路

現在在籍している学校などの次の進路は、「小中学校（特別支援学級）進学」が31.1%、「小中学校（通常学級）進学」が26.2%、「特別支援学校（小・中・高等部）」が13.9%となっています。

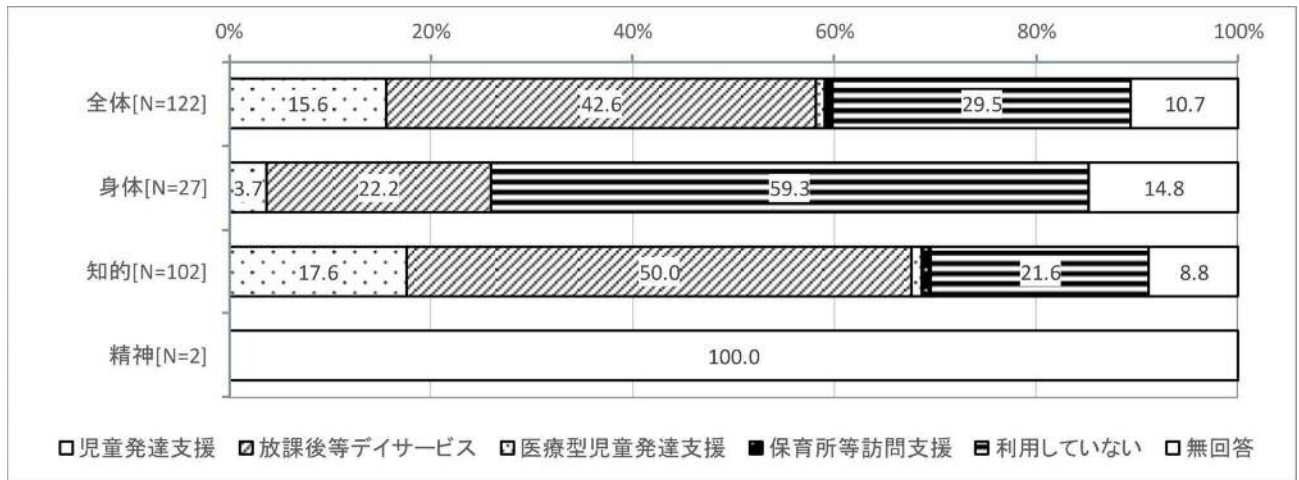
図表 55 希望する進路[N=122]



③ 障がい児通所支援の利用状況

障がい児通所支援の利用状況は、「放課後等デイサービス」が42.6%、「児童発達支援」が15.6%となっています。一方で、「利用していない」が29.5%となっています。

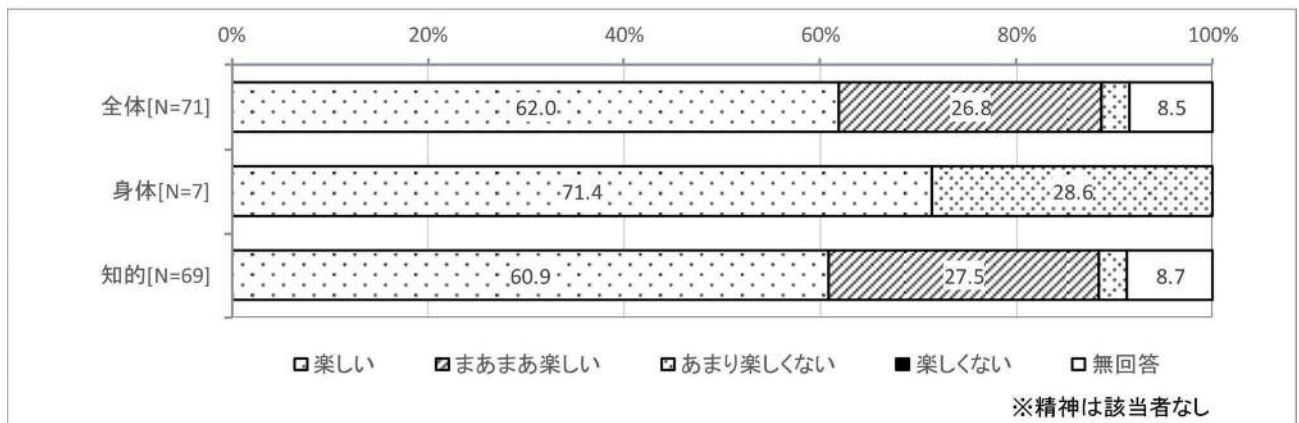
図表 56 障がい児通所支援の利用状況[N=122]



④ 児童発達支援・放課後等デイサービスの評価

児童発達支援、放課後等デイサービスを利用していると回答した人に、児童発達支援や放課後等デイサービスが楽しいか聞いたところ、「楽しい」(62.0%)、「まあまあ楽しい」(26.8%)を合わせると、9割弱が楽しいと回答しています。

図表 57 児童発達支援・放課後等デイサービスの評価[N=71]



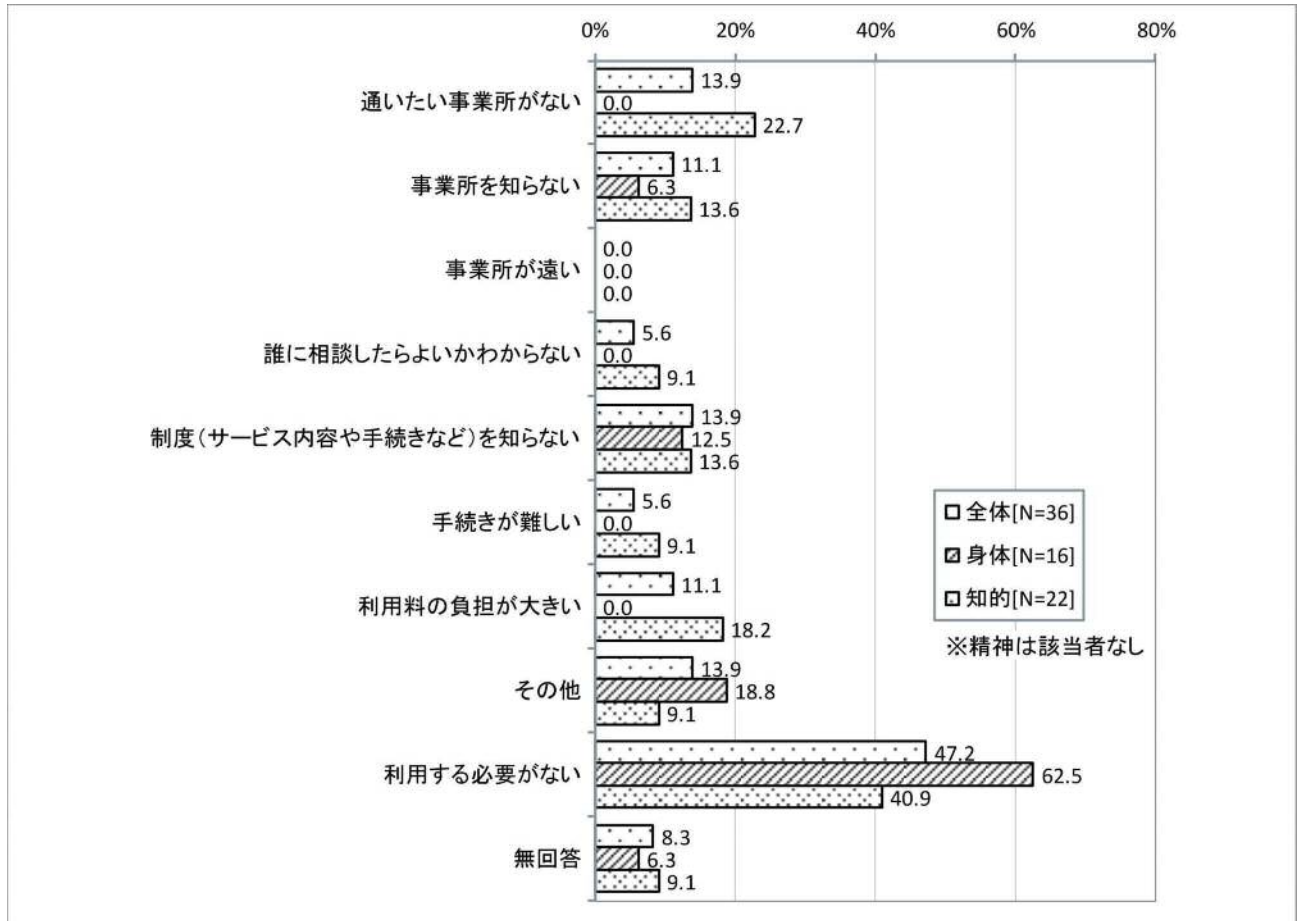
⑤ 児童発達支援・放課後等デイサービスが楽しくない理由

児童発達支援や放課後等デイサービスがあまり楽しくないと回答した人(N=2)に楽しくない理由を聞いたところ、「仲の良いお友達がない」(2名)、「好きな活動がない」「好きな先生がない」「家から遠い」(各1名)が挙げられています。

⑥ 障がい児通所支援を利用していない理由

障がい児通所支援を利用していない人に、利用していない理由を聞いたところ、「利用する必要がない」が47.2%、「通いたい事業所がない」「制度（サービス内容や手続きなど）を知らない」がともに13.9%となっています。

図表 58 障がい児通所支援を利用していない理由[N=36]（複数回答）



⑦ 障がい児通所支援の利用意向

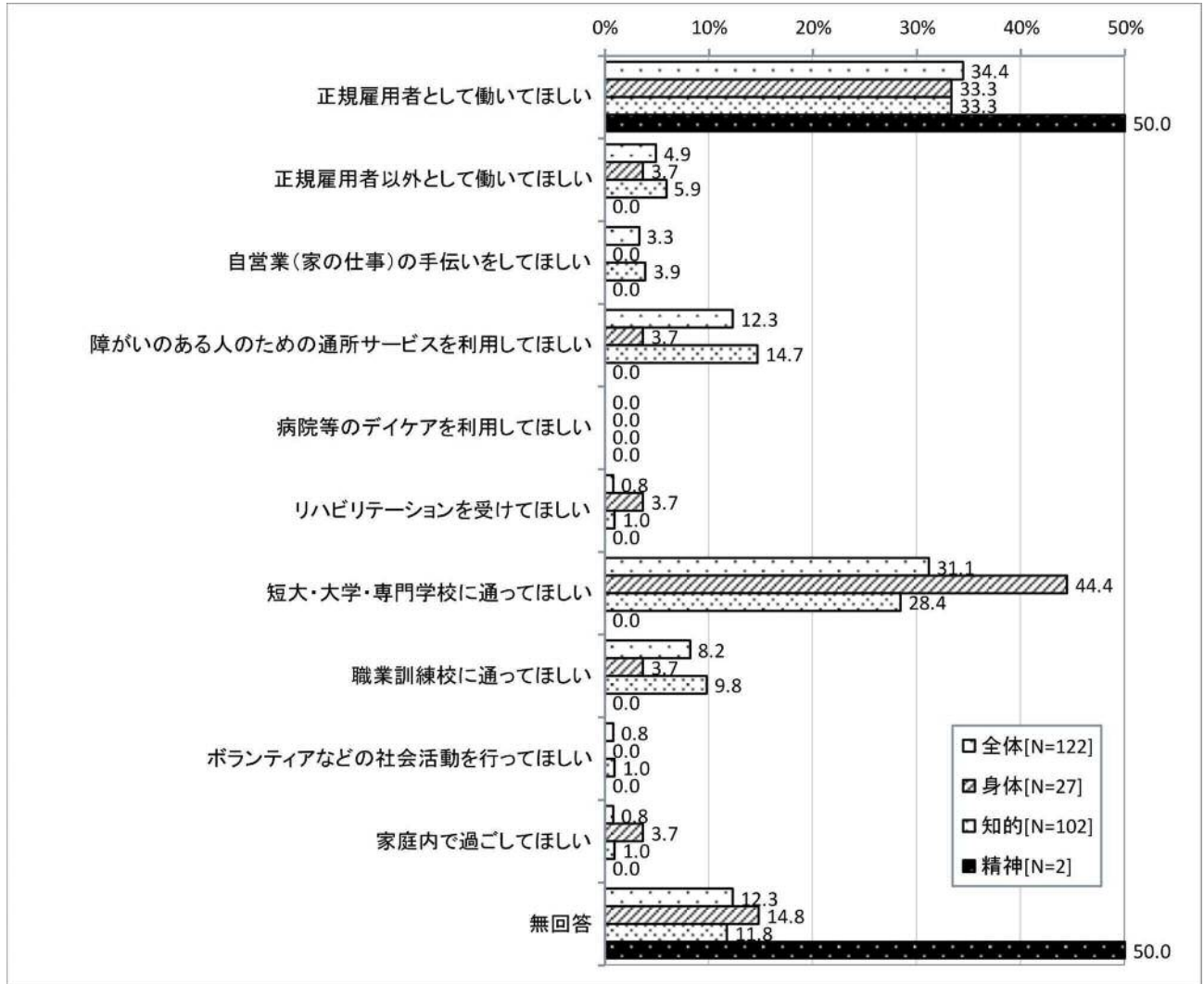
障がい児通所支援を利用していない未就学児の保護者（N=6）に今後の利用意向を聞いたところ、「利用したい」「利用しない」「わからない」との回答がそれぞれ2名となっています。

利用したいと回答した人に、特に利用したいサービスを聞いたところ、「児童発達支援」と回答されています。

⑧ 高等学校・高等部卒業後、日中をどのように過ごしてほしいか

保護者に、子どもが高等学校・高等部を卒業後、日中をどのように過ごしてほしいか聞いたところ、「正規雇用者として働いてほしい」が34.4%、「短大・大学・専門学校に通ってほしい」が31.1%となっています。

図表 59 高等学校・高等部を卒業後、日中をどのように過ごしてほしいか[N=122]



⑨ 保育や教育について今後特に必要と思うもの

保育や教育について今後特に必要と思うものは、「教員などの指導力の向上や障がいへの理解」が72.1%、「障がいのある児童・生徒の個々の状況に合わせた指導内容やカリキュラム」が71.3%、「周囲の児童・生徒，保護者の障がいへの理解」が64.8%、「インクルーシブ教育・保育の充実」が58.2%となっています。

図表 60 保育や教育について今後特に必要と思うもの[N=122]（複数回答）

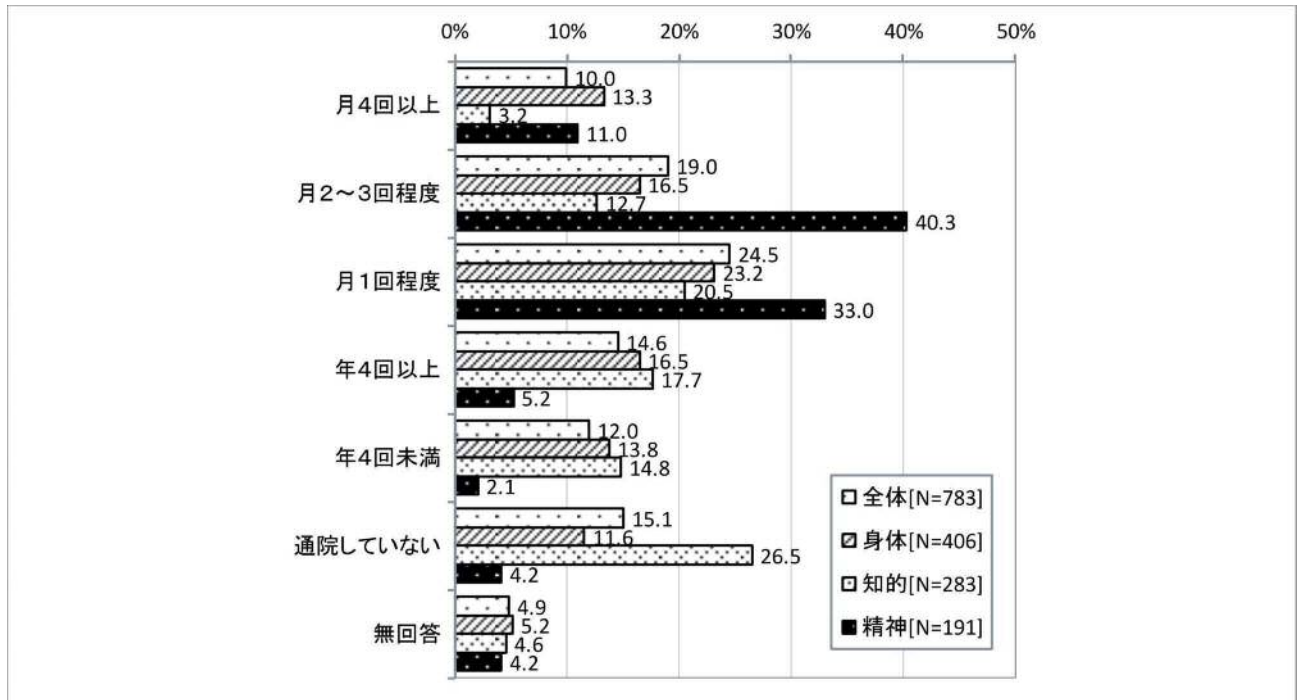
	全体	身体	知的	精神
N=	122	27	102	2
インクルーシブ教育・保育の充実	58.2	55.6	57.8	0.0
周囲の児童・生徒，保護者の障がいへの理解	64.8	59.3	66.7	50.0
教員などの指導力の向上や障がいへの理解	72.1	63.0	75.5	0.0
障がいのある児童・生徒の個々の状況に合わせた指導内容やカリキュラム	71.3	51.9	76.5	50.0
障がいのある児童・生徒に配慮した学校設備などの充実	44.3	44.4	46.1	0.0
通園，通学への配慮	43.4	40.7	46.1	0.0
進路指導や職業教育の充実（自立して働ける力の育成）	54.1	37.0	57.8	0.0
障がい児通所支援サービスの充実	41.0	14.8	47.1	0.0
障がい児入所支援サービスの充実	21.3	11.1	24.5	0.0
必要なときに一時的に利用できる日中一時支援事業の充実	40.2	29.6	44.1	0.0
コミュニケーション力や身辺処理面など，日常生活スキルの向上支援	52.5	40.7	56.9	50.0
学校以外での学習に対する支援	50.0	33.3	52.9	0.0
療育を行う施設の増設	45.1	25.9	51.0	0.0
休日などに活動できる仲間や施設	37.7	18.5	44.1	0.0
放課後や長期休暇中に利用できるサービスの充実	44.3	33.3	48.0	0.0
その他	3.3	7.4	2.9	0.0
特に必要ない	0.0	0.0	0.0	0.0
わからない	0.8	0.0	1.0	0.0
無回答	12.3	11.1	10.8	50.0

(5) 通院状況について（全員が対象）

① 通院頻度

通院頻度について、「月1回程度」が24.5%、「月2～3回程度」が19.0%、「月4回以上」が10.0%となっており、5割以上が月1回以上通院しています。精神障がいのある人は8割を超える方が月1回以上通院しており、知的障がいのある人は「通院していない」割合が高くなっています。

図表 61 1か月の通院頻度[N=783]

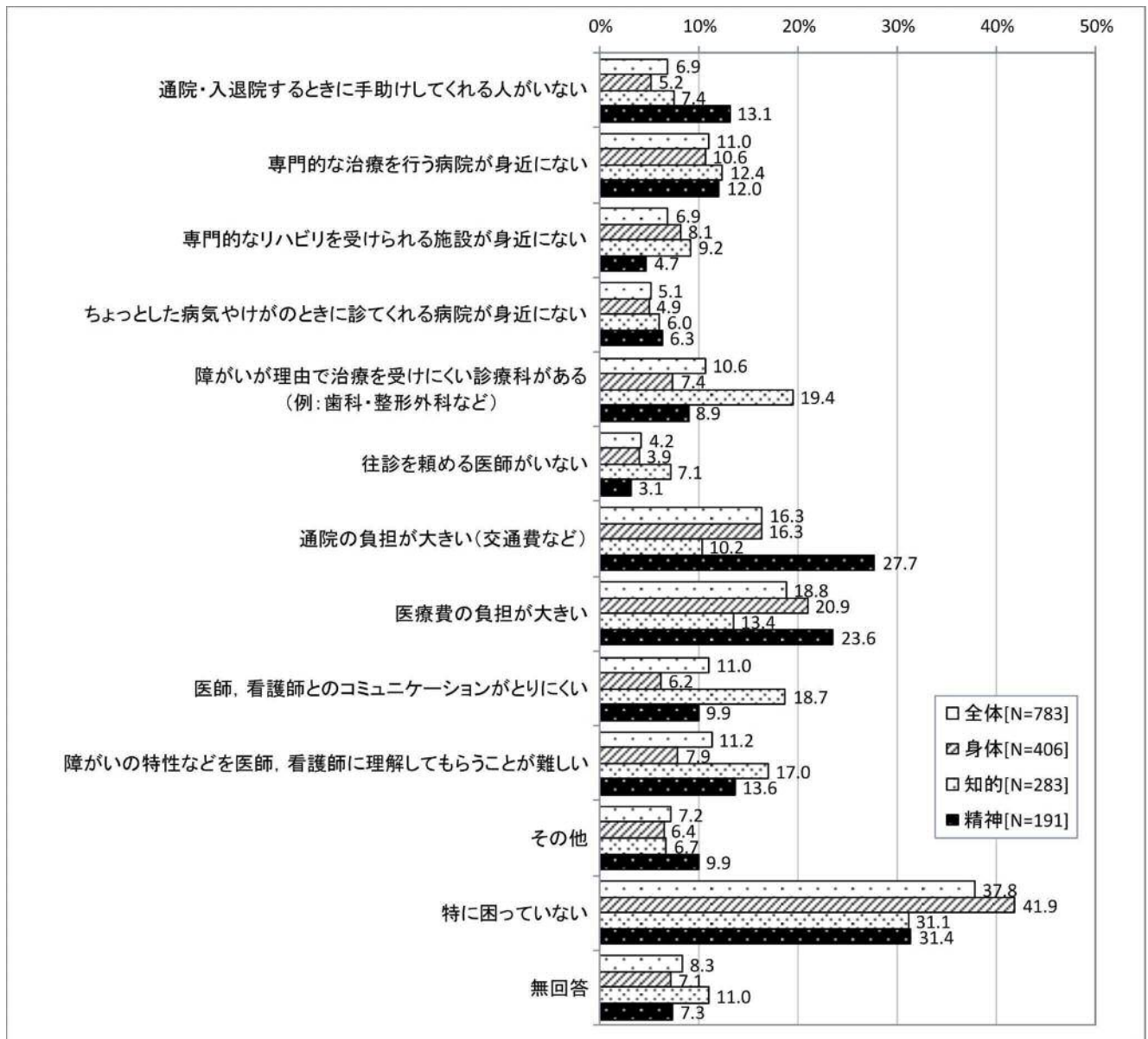


② 医療に関係することで困っていること

医療に関係することで困っていることは、「特に困っていない」が37.8%、「医療費の負担が大きい」が18.8%、「通院の負担が大きい（交通費など）」が16.3%となっています。

精神障がいのある人は「通院の負担が大きい（交通費など）」、知的障がいのある人は「障がいが理由で治療を受けにくい診療科がある」の割合が高くなっています。

図表 62 医療に関係することで困っていること[N=783]（複数回答）



(6) 生活の不安, 相談などについて

① 生活で困っていること・不安なこと

生活で困っていること・不安なことについては、「将来的に生活する住まい, または施設があるかどうか不安」が35.0%, 「自分の健康や体力に自信がない」が28.4%, 「家族など介助者の健康状態が心配」が23.4%となっています。

知的障がいのある人は「将来的に生活する住まい, または施設があるかどうか不安」, 精神障がいのある人は「自分の健康や体力に自信がない」「生活に必要なお金が足りない」「趣味や生きがいが見つけれない」「一緒に暮らしている家族との関係」の割合が高くなっています。

図表 63 生活で困っていること・不安なこと[N=783] (複数回答)

	全体	身体	知的	精神
N=	783	406	283	191
緊急時に相談できる窓口がない	10.5	10.3	9.9	15.7
身の回りの支援をしてくれる人がいない	5.2	4.7	4.2	10.5
一緒に暮らす人がいない	3.2	2.7	1.8	7.3
働くところがない	8.2	7.9	5.7	15.2
生活に必要なお金が足りない	19.8	18.7	13.4	37.2
趣味や生きがいが見つけれない	14.9	10.8	12.7	30.4
生活をするうえで必要な情報が得られない	6.3	6.2	7.1	7.9
自分の健康や体力に自信がない	28.4	31.3	10.6	52.4
家族など介助者の健康状態が心配	23.4	20.7	25.1	34.0
一緒に暮らしている家族との関係	9.8	6.9	6.4	22.0
必要な時に診てくれる病院がない	3.2	3.0	3.5	4.7
将来的に生活する住まい, または施設があるかどうか不安	35.0	27.8	48.8	37.7
生活に必要な福祉サービスなどが利用しにくい	10.2	10.1	12.7	12.6
その他	6.9	6.7	8.1	7.9
特に困っていることはない	22.5	26.4	19.1	11.0
無回答	6.8	6.7	8.8	5.8

② 相談相手

相談相手については、「家族・親戚」が79.6%、「友だち・知り合い・近所の人」が29.1%、「病院・診療所（医療相談）」が24.5%となっています。

知的障がいのある人は「サービスを利用しているところ（施設、作業所、事業所）」「サービス等利用計画を作成する相談支援専門員」、精神障がいのある人は「病院・診療所（医療相談）」の割合が高くなっています。

図表 64 相談相手[N=783]（複数回答）

	全体	身体	知的	精神
N=	783	406	283	191
家族・親戚	79.6	79.8	79.2	75.9
友だち・知り合い・近所の人	29.1	32.8	18.7	30.9
同じ障がいや病気を持つ人	9.8	10.6	8.8	11.0
保育所・幼稚園・認定こども園・学校	5.4	1.7	12.7	0.5
職場	7.7	7.9	7.4	7.3
病院・診療所（医療相談）	24.5	20.9	17.3	41.4
サービスを利用しているところ（施設、作業所、事業所）	17.8	8.4	33.9	17.3
ホームヘルパー	3.8	3.2	5.3	3.7
障がい者相談支援事業	9.2	5.4	11.0	17.3
サービス等利用計画を作成する相談支援専門員	11.4	5.9	21.2	11.0
市役所	6.9	6.7	5.7	9.9
社会福祉協議会	4.6	2.7	7.4	5.8
保健所や保健センター	1.7	0.7	2.5	2.1
民生児童委員・福祉推進委員	0.6	0.2	0.7	1.6
障がい者相談員	4.0	2.2	4.6	6.3
障がい者（児）団体	1.8	1.0	3.2	1.6
その他	2.8	2.0	2.8	4.2
相談する人はいない	4.3	5.4	1.4	6.8
無回答	5.5	5.9	7.4	4.7

前回調査と比較すると、すべての障がい種別において、「サービス等利用計画を作成する相談支援専門員」の割合が高くなっています。また、知的障がいのある人は「障がい者相談支援事業」、精神障がいのある人は「障がい者相談支援事業」「病院・診療所（医療相談）」「ホームヘルパー」の割合が低くなっています。

図表 65 相談相手（複数回答）（前回調査との比較）

	身体		知的		精神	
	平成 28年度	令和 元年度	平成 28年度	令和 元年度	平成 28年度	令和 元年度
N=	429	406	266	283	159	191
家族・親戚	80.9	79.8	82.0	79.2	71.7	75.9
友だち・知り合い・近所の人	33.8	32.8	14.7	18.7	28.9	30.9
同じ障がいや病気を持つ人	10.3	10.6	7.9	8.8	11.3	11.0
保育所・幼稚園・認定こども園・学校※1	1.9	1.7	13.9	12.7	1.3	0.5
職場	7.0	7.9	4.9	7.4	8.2	7.3
病院・診療所（医療相談）	24.2	20.9	15.0	17.3	49.1	41.4
サービスを利用しているところ（施設、作業所、事業所）	9.3	8.4	37.6	33.9	18.2	17.3
ホームヘルパー	4.0	3.2	4.5	5.3	8.8	3.7
障がい者相談支援事業	7.0	5.4	17.3	11.0	28.3	17.3
サービス等利用計画を作成する相談支援専門員※2	4.4	5.9	14.3	21.2	8.8	11.0
市役所	8.2	6.7	7.1	5.7	12.6	9.9
社会福祉協議会	2.1	2.7	6.8	7.4	3.8	5.8
保健所や保健センター	2.3	0.7	4.1	2.5	4.4	2.1
民生児童委員・福祉推進委員	0.2	0.2	0.4	0.7	1.9	1.6
障がい者相談員	4.0	2.2	6.8	4.6	6.9	6.3
障がい者（児）団体	0.7	1.0	3.4	3.2	1.9	1.6
その他	1.9	2.0	4.9	2.8	4.4	4.2
相談する人はいない	4.9	5.4	2.6	1.4	5.0	6.8
無回答	2.6	5.9	2.6	7.4	3.8	4.7

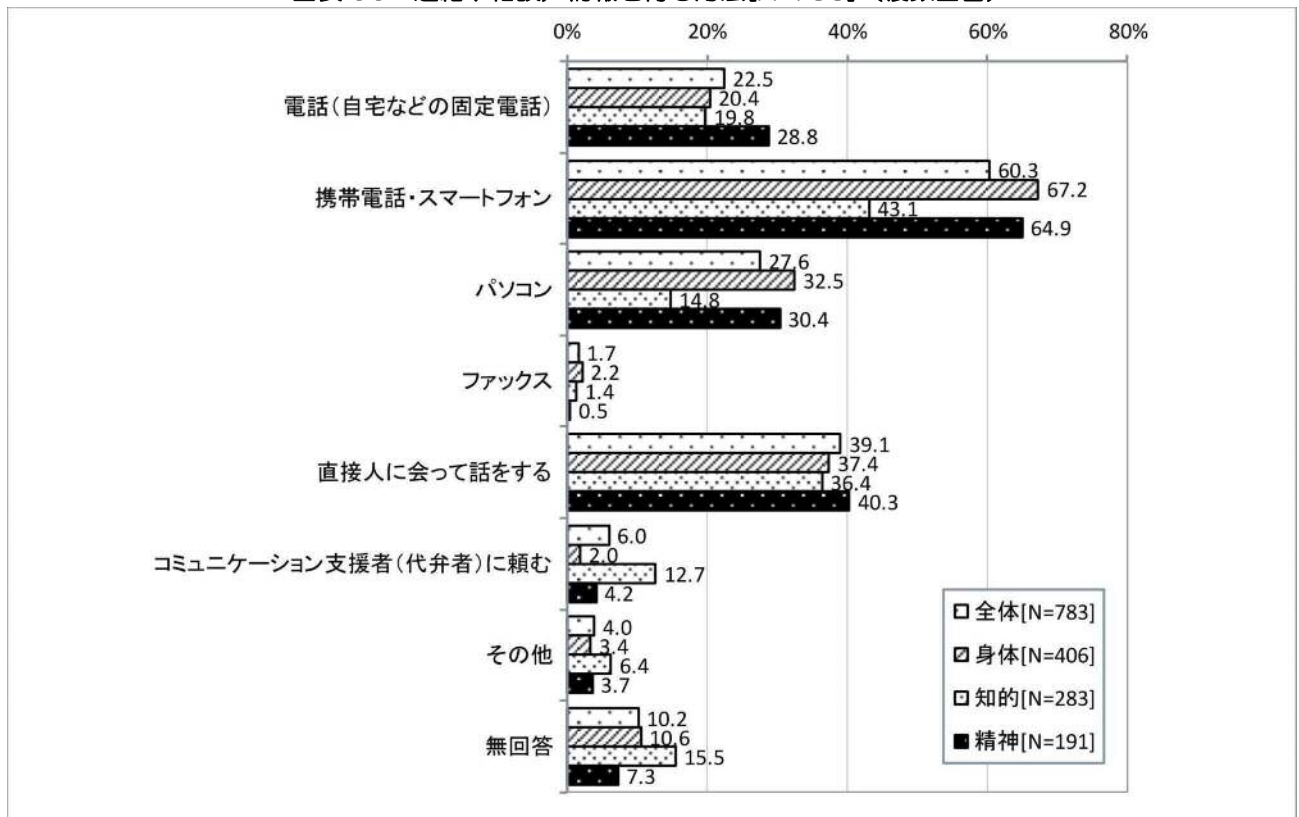
※1 前回調査では「保育所・幼稚園・学校」

※2 前回調査では「サービス等利用計画・障害児支援利用計画を作成する相談支援専門員」

③ 連絡や相談、情報を得る方法

連絡や相談、情報を得る方法は、「携帯電話・スマートフォン」が60.3%、「直接人に会って話をする」が39.1%、「パソコン」が27.6%となっています。

図表 66 連絡や相談、情報を得る方法[N=783]（複数回答）



前回調査と比較すると、すべての障がい種別において「携帯電話・スマートフォン」の割合が高くなっています。

図表 67 連絡や相談、情報を得る方法（複数回答）（前回調査との比較）

	身体		知的		精神	
	平成28年度	令和元年度	平成28年度	令和元年度	平成28年度	令和元年度
N=	429	406	266	283	159	191
電話(自宅などの固定電話)	32.9	20.4	28.9	19.8	45.3	28.8
携帯電話・スマートフォン	58.5	67.2	37.2	43.1	56.6	64.9
パソコン	33.6	32.5	15.0	14.8	30.2	30.4
ファックス	3.5	2.2	1.5	1.4	0.6	0.5
直接人に会って話をする	32.9	37.4	35.3	36.4	40.9	40.3
コミュニケーション支援者(代弁者)に頼む	5.8	2.0	22.9	12.7	5.0	4.2
その他	4.4	3.4	10.2	6.4	2.5	3.7
無回答	4.4	10.6	9.8	15.5	5.0	7.3